

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

平成26年度病虫害防除情報第8号

果樹カメムシ類の発生状況についてお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

果樹カメムシ類の発生量が多くなっています。 今後の発生状況に注意し、適期防除に努めましょう。

1. 作物名 果樹全般
2. 病虫害名 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）

3. 発生状況

(1) チャバネアオカメムシ

県内3か所に設置しているフェロモントラップの誘殺数はおおむね平年並で推移しているが、県内5か所に設置している予察灯への誘殺数が8月上旬頃から増加している。7月第1半旬から9月第2半旬までの総誘殺数は、日南市で256頭（平年125.2頭）、国富町で173頭（平年13頭）と一部地域では平年に比べ多となっている（図1）。

(2) ツヤアオカメムシ

フェロモントラップでの誘殺数は平年並であるが、予察灯では一部地域で誘殺数が多く、7月第1半旬から9月第2半旬までの総誘殺数は、日南市で685頭（平年191.2頭）、都城市で40頭（平年11.2頭）である（図2）。

(3) 一部の園地では、既に8月下旬頃からカメムシ類の飛来が確認されている。

(4) 全国的に果樹カメムシ類の発生が多く、九州では、長崎県、大分県及び鹿児島県が注意報を発表している（9月16日時点）。

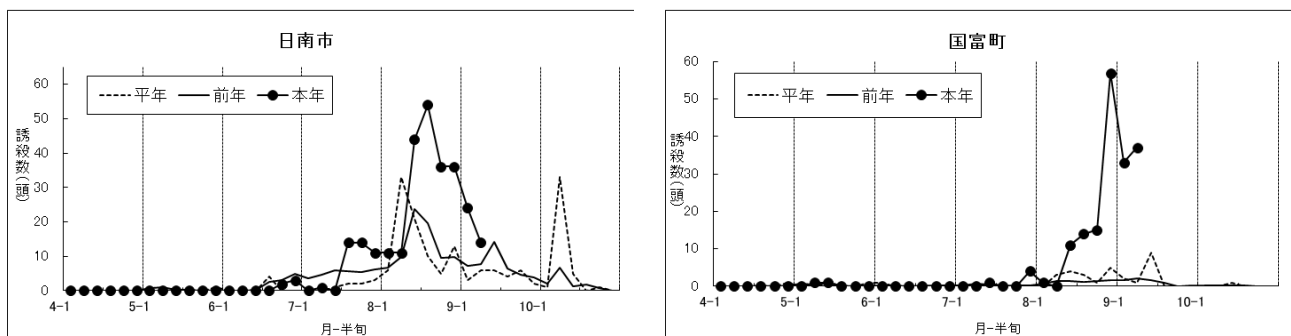


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺状況

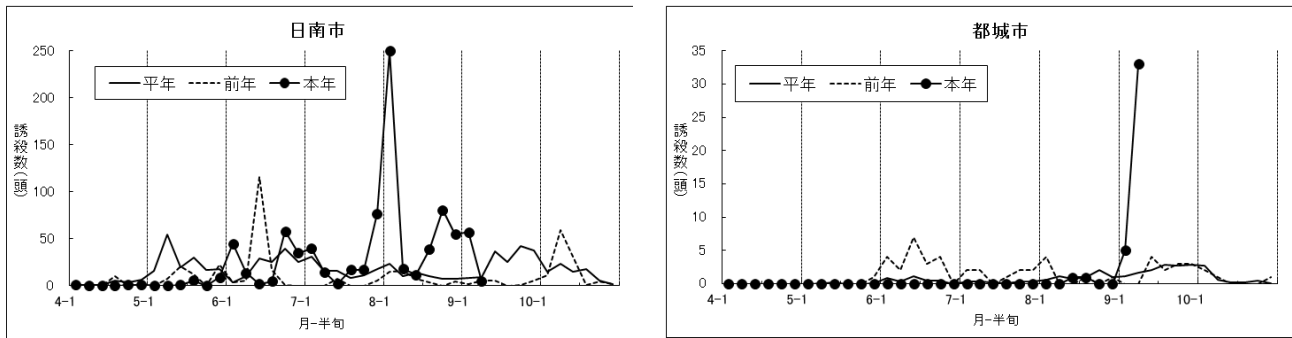


図2 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺状況

4. 防除上の注意

- (1) 飛来時期や飛来量は園地によって異なるため、園内外の見回りを徹底し、飛来が見られたら直ちに防除を実施する。
- (2) 果樹園に侵入したカメムシは集合フェロモンで同種を大量に誘引し被害を拡大させるおそれがあるので十分注意する。
- (3) 飛来初期には残効の長い合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤で防除を行うと効果的である。ただし、これらの薬剤は多用すると天敵等への影響が大きく、ハダニ類等の発生を助長しやすい。このため連用を避け、系統の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
- (4) 収穫中もしくは収穫時期が近い品目については、農薬の使用回数や収穫前日数に注意し防除を行う。
- (5) 台風通過後は果樹園への飛来が急増することがあるので特に注意する。

5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 農薬の使用については、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守する等厳重な注意を払うとともに危害防止に努めましょう。また、周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 若杉

TEL:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127

ホームページ: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>

E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp